

五戸町誌編集委員会編

# 「五戸町誌」

稲葉克夫

「五戸町誌」上下二巻は、三戸郡五戸町が町村合併による新五戸町誕生、十周年と、ふるい五戸町の町制施行五十周年を記念して昭和三十八年以来、刊行委員会を設けて編さんにとりかかり、上巻六八三頁は昭和四十二年六月に、下巻一、三五六頁は昭和四十四年三月に刊行になった。

五戸町誌編集委員会の構成メンバーは、委員長江渡益太郎（教員）、副委員長植石鶴文（僧侶）、中市寛司（団体役員）、川崎文三郎（農業）、江渡泰三（教員）、大釜安也（教員）、池野譲（教員）で、川崎文三郎が町誌刊行委員会事務局長だった。刊行委員会は町長を委員長とし、委員は前記編集委員のほか、助役、収入役と町会議員数名からなつた。監修者は岩手大学教授森嘉兵衛博士だった。

なお、町誌であつて町史としない理由は、史に必要な史観を編集委員が同じくしていないことと、資料をその

まま載せることのあること、地理的なものも載せる都合上としている。

上巻は、三編十二章四十七節六百頁と補遺七四頁より成り立っている。各章節の内容は、

才一編 自然環境 才一章 地誌 才一節 位置

才二節 地勢 才三節 境界 才四節 河川・沼

次・原野 才二章 気象 才一節 気象概観

才二節 気温 才三節 降水量 才四節 降雪・

降雹 才五節 日照時間 才六節 風向・関係選

度 才三章 地質・土壌 才四章 聚落分布

才一節 面積 才二節 聚落分布 才五章 自然

災害 才六章 人口推移 才七章 生物 才一

節 動物 才二節 植物 才三節 有用生物

才四節 生物方言

才二編 古代・中世 才一章 先史・古代社会

才一節 石器社会 才二節 古代社会 才二章

中世社会 才一節 五戸の発祥 才二節 鎌倉九

才四門の制 才三節 城と館 才四節 村落の

構造

才三編 近世社会 才一章 村落の支配構造 才

一節 南部藩政の概観 才二節 村落の初期支配形

態 才三節 村の行政 才四節 村の政政 才

五節 村落の構造 才六節 在野の確立 才七節

才村至とその後裔 才二章 村落の生産経

才一節 農業生産構造 才二節 新田開發 才三節

凶作と救済 才四節 富屋経営 才五節 五戸通

の百姓一擧 才六節 五戸市の物産流通 才三章

五戸地方の社寺信仰 才一節 施設 才二節 八幡

宮 才三節 稻荷社 才四節 五戸神明宮 才五

節 天満宮 才六節 寺倉橋峯藥師堂 才七節 光

明山高雲寺 才八節 一向山専念寺 才九節 西沢

山攝書院(攝聚院) 才十節 瑞洞山宝福寺 才十一

節 求禪院(庵寺) 才十二節 五戸祭

補遺 才一 古文書について 才二 藩制概構表

才三 五戸本村文書 才四 寺社文書(高雲寺 才

五 寺社文書(八幡宮 才六 地方文書(持良村と七

戸村の取替記録 才七 武家文書(北原士卒某令

才八 武家文書(五戸、大真寺義録 才九 南部藩分

限書付 才十 盛岡藩産物雷付

下巻は、五篇二十二章九十九節と年表、それに付録の五

戸録、さらにあとがきに「十勝沖地蔵と五戸」がある。

下巻は明治以降の近代五戸史で、大正四年の町政施行を

一つの区切りとしている。その内容をみると、

才四編 政治 才一章 明治維新の展開 才一節

三戸県治 才二節 藩政の設置 才三節 斗南

藩と五戸 才二章 町村制の整備 才一節 戸籍法

の制定 才三節 大小区制の施行 才三節 一小区

制度 才四節 新機陸奥国誌より 才五節 地租改

正 才六節 戸長役長行民 才三章 明治天皇東北

巡幸と五戸 才一節 存続 才二節 五戸駅へのて

巡幸(明治九年) 才三節 巡幸肉店記録 才四節

明治十四年のご巡幸 才五節 明治天皇五戸行在所

才四章 士族階級の没種運動 才五章 町村制の施

行 才一節 五戸村社会(明治年代) 才二節 川内

村才一区決議書 才三節 浅田村郷土史より 才四

節 五戸村経済情况概略 才五節 浅水の大火 才

六節 明治末期の封政政 才七節 大正二年の凶作

才八節 五戸村の大火 才六章 町制施行 才一

節 町制施行 才二節 大正四年の行事等 才七章

明治維新以降の政治年表

才五編 交通 才一章 陸羽街道のむかし 才一

節 戦国時代 才二節 奥州街道 才三節 明治

大正期の街道 才一節 古道と新道 才二節 明治

以後の街道

才六編 産業 才一章 明治期の産業 才一節

明治維新の農業改革 才二節 斗南藩の植林育成

才三節 部落有林の取りたち 才四節 村有林への改

変 才五節 士族帰農 才六節 養蚕家の改良

才七節 馬産改良 才八節 明治期の醸造業 才九

節 町と産業の変遷 才十節 固有産業の近代化

才三章 近代産業の発展 才一節 洋産りんごの栽培

才二節 五戸りんご栽培の沿革 才三節 水稻作

付品種の改良 才四節 煙作物の作付構成 才五節  
 五戸りんごの特徴 才六節 農機具の普及発達 才  
 七節 農業構造改善事業 才三章 土地改良の進展  
 才一節 用水堰の史的変遷 才二節 田沢の生産技  
 術 才三節 五戸地域の耕地整理 才四節 川内地  
 域の田圃整理 才四章 農業団体 才一節 管内土  
 地改良区 才二節 農業協同組合 才三節 五戸畜  
 産農業協同組合 才四節 五戸町農業共済組合 才  
 五節 森林組合 才六節 五戸地区農業改良普及所  
 才七節 農業委員会 才八節 浅田青果出荷組合  
 才五章 農業試験研究機関 才一節 試験場設立  
 の動機 才二節 農試分場設立までの経過 才三節  
 青森県りんご試験場南部支場 才四節 青森県養鶏試  
 験場 才五節 試験研究の業績 才六章 商業  
 才一節 商業の変遷 才二節 五戸のまちの日 才  
 三節 商業団体の変遷 才五節 五戸の物産  
 才七節 教育 才一章 藩政末期の教育 才一節  
 官説 才二節 武士階級の教育 才三節 庶民の教  
 育 才二章 明治の教育 才一節 学制配布と本県  
 の事情 才二節 専立小学校 才三節 村立小学校  
 才四節 倉沢平治右任 才五節 五戸の青年会運動  
 才三章 明治・大正の町村教育行政 才一節 師  
 範教育新報 才二節 天満後(ヘタナタカマ)校舎新築  
 才三節 学務委員 才四節 授業料の軽減 才五

節 教育費 才六節 就学奨励 才四章 昭和の教  
 育 才一節 概観 才二節 五戸の新教育運動  
 才三節 五戸高等学校の歩み  
 才八編 民俗 才一章 村落生活の種々相 才一  
 節 雪と生活 才二節 村の民家 才三節 茅の屋  
 根葺き 才四節 樺めしと暖めし 才五節 村落の  
 しぐみと組 才六節 はかど割ばか 才七節 五戸  
 馬 才二章 郷土芸能 才一節 左にり 才二  
 節 盆会と金踊 才三節 南部駒踊 才四節 民謡  
 才三章 民俗信仰と風習 才一節 屋敷の稻荷様  
 才二節 伊勢参り 才三節 町使い 才四節  
 年中行事 才五節 布のづれ 年表 付録  
 五戸録 あとがき(一)十勝沖地震と五戸(一)あとがき  
 「五戸町誌」上下二巻 約二千頁の内容は、一町村史  
 としては稀に及るすばらしい出来栄である。これは満  
 さる委員の郷土への激しい愛情と監修者の森博士の意気  
 との見事なコンビネーションの産物である。  
 私は町誌編纂の過程を直接的に知っているが、最大  
 の特色は五戸の先祖、木村全南侯文書の公刊活用である。  
 森博士もこれゆえに極めて意欲的だった。またかつて「  
 町誌」の最大の出色は上巻の中近世史にある。とくに中  
 ・近世村落の構造的研究所は森博士の得意の分野でもある  
 が、この史料の優越さとあわせて、地方史としては全国

水準の白眉のものといえよう。

下巻は大部であり、やや統一性を欠く。しかし産業編など充実した内容である。大正から五戸は極めて政争の激しい町となった。その対立・抗争は近年まで尾をひいていた。したがって「町誌」は大正以降の政治史をことごとく避けたのであるが、この点、下巻に柱を欠く原因となった。また五戸は盟約・文化の上でもすぐれた人物を多く生み出しているが、この点に觸れることが少なかったのも物足りない。地方史が現代に近づくにつれて、いろいろ現存者に関係してくるので筆をおさえなければならなくなり、それとともにさえをみせなくなり勝ちになるが、「町誌」にも々々そのさらいがある。

しかし、今後、青森県の歩みを知る上に、また中・近世の南部を知る上に、この「五戸町誌」三巻は是非ともひとつかなければならぬ必須の文献であることには変わりはない。

「五戸町誌」は最初にも書いたように、史ではない。それゆえにこそ、ナマの貴重資料が数多く採録されている。今後、研究者がこの三巻の中から無限の価値を汲みだせる極めてすぐれた内容であることを再三強調しておきたい。